

事

例

集

## 3歳児事例

4月19日（火） 「先生！お湯入れるの無い！」

| 幼児の姿   | 教師の思い・考え  |
|--|---|
| <p>ままごとコーナーでB児，J児が遊んでいる。それぞれ同じ場にいるが，別々に遊ぶことを楽しんでいる。B児がお茶を入れようとしたところ，ポットがないことに気づき，教師に話しかけてきた。</p> <p>B児 「先生！お湯入れるの(ポット)ない！」</p> <p>教師 「うーん，中(キッチン)に入っていると思うけど」</p> <p>B児はキッチンの棚を開けるが，見つけることができない。</p> <p>B児 「ない」</p> <p>教師 「困ったねえ」</p> <p>同じ場で遊んでいたJ児が，B児と教師とのやりとりやB児の困っている様子を見て</p> <p>J児 「ここにあるんじゃない？」</p> <p>とキッチンの棚をもう一度開け，中からポットを見つけ出した。</p> <p>J児 「はい，どうぞ」</p> <p>B児 「ありがとう」</p> <p>教師 「よかったね。J児ちゃんありがとう」</p> <p>B児は嬉しそうにポットを受け取り，再びままごとを始めた。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ B児の困っている気持ちは受け入れるが，自分で見つけてほしいため，一緒には探さず自分で探せるよう声をかけ見守った</li> <li>・ 一緒の場で遊び，どこにポットがあるか知っているJ児にB児が困っていることを気づいてほしく大きめの声でB児と会話をした</li> <li>・ J児の力を借りることでポットを見つけることができると判断したため，直接かかわらず見守ることとした</li> </ul> |

### 《 考察 》

#### 課題

- ・ ポットが欲しい

#### 解決方法

- ・ 友達に教えてもらって解決 教えてもらう 友達に助けてもらう

#### 学んでいたと思われること

- ・ 自分の使いたい遊具を見つけるために教師にかかわる(B児) 思考 言葉で表す
- ままごとでポットを使ってお茶をいれようと決め，ポットを探すが見つからず，教師にポットが欲しいとかかわる場面

- ・友達に助けてもらえるよさ(B児) **協力**  
友達が自分のほしいと思っていたポットをキッチンから探し出し、渡してくれた場面
- ・友達の困っている様子に気づき、解決してあげようとする(J児) **協力**  
友達や教師の話聞き、自分なら解決できると判断し自らかかわり困っていることを解決する場面

### 環境の構成 **絵で示しておく**

- ・遊具の種類や数をそろえたり、遊具の場所が分かりやすいように絵で示したりする  
どこにどんな遊具があるのかを分かりやすいように、絵で示したり、いくつあるか分かりやすいよう数をそろえたりしておく。そのことで、遊具を見つけられないB児に対して、J児は遊具のある場所の見当をつけることができ、B児にかかわり解決に向かえたと考える。
- ・幼児の遊びを見守る教師の存在 **見守る** **教師の存在** **安心感**  
入園間もないこの時期に、教師に近くで見守られているという安心感があつたために幼児は安心して遊びたい場所や気に入った遊具を見つけ遊び出すことができたと考え。また教師が近くにいることで、一緒の場にいたがかかわることがなかった友達ともかかわるきっかけになったと考える。

### 教師の援助

- ・困っていることには共感し、見守る **見守る** **共感する**  
教師はキッチンの決められた場所にポットがあることは分かっていたため、自分で使いたいと思ったものは自分で探し出してほしいと考えていた。そのため、ポットが見つからず困っている気持ちには共感したが一緒に探したり、見つけてあげたりすることはしなかった。そのことでJ児が困っている先の様子に気づきかかわっていくことにつながっていったと考える。
- ・一緒の場で遊んでいる幼児に困っている様子が分かるように大きな声で応える **困っていることを見取り、広める**  
教師はその場で遊んでいるJ児なら、ポットのある場所を見つけられるのではないかと見当をつけていた。そのため、B児とのやり取りをJ児にも聞こえるようにし、J児が先の困っていることに気づいていけるようにした。
- ・二人の思いに共感する **共感する**  
B児がポットを友達に見つけてもらえたこと、J児が友達のためにかかわったことに対して、それぞれの気持ちに共感することで、友達に手を貸してもらうことや友達に手を貸すことに対して肯定的な気持ちをもてるようにした。

(文責：林 博之)

4月20日(木) 「とらんといて」

| 幼児の姿  | 教師の思い・考え  |
|---|---|
| <p>何人かのグループになり、のりを使って色紙を貼る活動を行った。</p> <p>初めて使うのりの蓋はとても固く、幼児の力ではなかなか開けることができなかった。その中でD児はのりの蓋を開けることができていた。F児は蓋を開けられないようで、</p> <p>F児 「あけられない」</p> <p>と教師に蓋があかないことを伝えてきた。同じグループのD児はふたを開けることができていることを分かっていたため、</p> <p>教師 「D児君できたって。聞いてみたら？」</p> <p>とD児に力を貸してもらってはどうかと伝えた。そのやりとりを見ていたD児は、F児の蓋を開けようとF児の持っているのりに手を伸ばした。教師が伝えた意味が分からなかったF児は、D児にのりを取られてしまうと思い</p> <p>F児 「とらんといて」</p> <p>教師 「F児ちゃん、D児君してくれるって」</p> <p>それを聞いたF児は、安心した表情でD児にのりを渡した。D児はのりの蓋を開けて</p> <p>D児 「どうぞ」</p> <p>と言い、F児に渡した。</p> <p>F児 「ありがとう」</p> <p>F児は嬉しそうにのりを受け取り、製作を始めた。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふたを開けられる友達が近くにいることに気づいてほしいと思い提案した</li> <li>・困っている友達がいることをグループの友達に意識してほしいと思い提案した</li> <li>・友達が手伝ってくれることを伝え安心できるように声を掛けた</li> </ul> |

## 《 考察 》

### 課題

- ・ノリの蓋を開けたい

### 解決方法

- ・友達に力を貸してあげて解決 (D児) 力を貸す
- ・友達に力を貸してもらって解決 (F児) 力を貸してもらう

### 学んでいたと思われること

- ・困っていることを表現すること(F児) 言葉で表す

F児はノリの蓋を自分の力で開けることができず困り、教師に蓋が開かないということを伝えた場面

- ・手伝ってくれる友達がいることを知る(F児) **他者受容**

D児がのりに手を伸ばした場面では、取られてしまうと思ったF児であったが、ふたを開けてもらって「ありがとう」と受け取った場面では手伝ってくれる友達の存在について知ることができたのではないだろうか

- ・困っている友達に気づき、手助けする(D児) **協力**

D児は教師とF児とのやり取りを聞き、F児が困っていることに気づき、自らのりの蓋を取ろうと手を伸ばしかかわろうとしてきた場面

## 環境の構成

- ・グループでの活動 **友達の様子に気づける場** **かかわりやすい距離**

何人かで1つの製作マットに集まり、のりを使う活動を行った。個別の製作活動であるが、すぐ近くに友達がおり、F児が困ってしまい教師とやり取りをしている場面でも、その様子を意識して活動することができた。そのためD児はすぐにF児にかかわっていったと考える。

- ・一人1つののりをもつ **一人1つの道具**

一人が1つののりをもつことで、蓋を開けられる幼児、開けられない幼児が出てきた。蓋を開けられない幼児は困り感をもち、解決するために開けてほしいと教師に伝えることへとつながった。

## 教師の援助

- ・教師以外にも手伝ってくれそうな友達がいることを知らせる **他者の存在を知らせる**

F児には教師が代弁するまで、D児の思いや教師の意図は伝わらなかったが、D児が蓋を開けられたことを知らせることで、D児にかかわり困っていることを解決できないかと考えた。

- ・困っている友達の存在を知らせる **他者の存在を知らせる**

F児がふたを開けられず困っている様子をD児が気づけるように、「D児君できたって。聞いてみたら？」と少し大きめに声を掛けた。このことでD児はF児の困っている様子に気づきかかわっていったのではないかと考えた。

- ・思いを代弁し、安心させる **代弁する** **安心できるようにする**

D児がのりに手を伸ばした時、F児は自分ののりがとられてしまうと思った。教師はD児がのりを取るのではなく、蓋を開けてくれるために手を伸ばしたことをF児に伝え、安心してのりを手渡せるようにした。

(文責：林 博之)

5月26日(月) 「壊れてるんですけど。ちょっと、直して!つぐれない!」

| 幼児の姿  | 教師の思い・考え  |
|---|---|
| <p>J児, I児, N児, M児, F児, D児が水道から塩ビ管を引いて, 水が流れ落ちる様子を見たり, 水に触ったりして遊んでいた。遊んでいるうちに, 水道から引いた塩ビ管の筒が外れ, 水が流れなくなっていることにI児が気づいた。J児が一人で直そうとしているが直すことができずに困っていた。</p> <p>I児 「壊れてるんですけど。ちょっと、直して!つぐれない!」</p> <p>と大きな声で教師に向かって声をかけた。</p> <p>教師 「I児君, 先生ちょっと直せないかも。だれか力を合わせて直せないかな」</p> <p>と声を掛けた。すると近くで遊んでいたF児, N児が</p> <p>F児 「はい」</p> <p>N児 「はい」</p> <p>と教師の声に気づき, 駆け寄ってきた。F児, N児が駆けつける様子を見たM児も駆けつけ, 塩ビ管を一緒に持ち上げ直し始めた。その様子に気づいたD児も</p> <p>D児 「僕と一緒に」</p> <p>と加わり, 塩ビ管を水が流れる位置に戻そうとしている。M児はみんなと一緒に塩ビ管を持ち上げようとしていたが, D児, J児, I児, N児ら四人で持ち上がるのが分かり, 塩ビ管から手を離れた。その後すぐに水道と塩ビ管を繋ぐホースを手に取り, 水道のところで待っていた。塩ビ管が元の位置に戻るとすぐにホースを差し込み, 水を流し入れた。水が塩ビ管から流れ落ちる様子を見たI児は</p> <p>I児 「できたー!」</p> <p>といい, 直ったことを喜び, 満足そうにジョウロに水を汲んでいた。</p> <p>教師 「なおった!よかったね。みんな力合わせて。これで壊れても安心だね。直せるね。」</p> <p>D児, N児, M児, J児は直った様子を見届けると, また自分の遊んでいた場所へ戻っていった。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児同士がかかわり解決に向かってほしいと願い声を掛けた</li> <li>・近くで遊んでいた幼児がかかわってきたので, その場を見守ることにした</li> <li>・直すことができ, 喜ぶ姿に共感し, また同じことが起きても友達と一緒に解決に向かうことができることを願い, 声を掛けた</li> </ul> |

## 《 考察 》

### 課題

- ・竹の樋を直したい

### 解決方法

- ・友達と力を合わせて一緒に解決 **協力**

### 学んでいたと思われること

- ・困っていることを見つけ、表現する(I児) **表現**

塩ビ管が外れていることに気づき、J児が直そうとするが直せない姿を見て、自分も友達も困っていることを教師に伝えた場面

- ・友達に力を貸してもらおうよさ(I児) **協力**

教師の声をきっかけに集まった友達と一緒に、塩ビ管をもとの位置に戻すことができた場面

- ・重いものを持ち上げる方法 **協力** **思考** **気づき**

一人では持ちあげられない塩ビ管であるが、四人で力を合わせれば持ちあげられた場面

- ・手を貸す必要のある場所を判断する **思考** **気づき** **状況判断**

M児が塩ビ管を持ちあげようとしたが、自分以外の四人で持ちあがることが分かると、水を流すためのホースの調整をすることにした場面

### 環境の構成

- ・水を流すための塩ビ管と不安定な台 **水を流す楽しさ** **一人では操作できない道具**  
**不安定な場**

塩ビ管は太く直径が20cmほどある。幼児一人では持ちあげることが難しいものである。また、塩ビ管を支える台も、不安定で押すとすぐに倒れてしまう。塩ビ管の中に水を流す楽しさを味わえるが、一度水道からつなげた塩ビ管が壊れてしまうと一人ではどうしようもなくなってしまふ。この環境が困り感を生み出すことや、友達とのかかわり(友達に手を貸す、手を貸す場所を見つける)をつくることにつながったと考える。

- ・教師の力を借りることができない状況 **教師が意図的にかかわらない状況**

今までの経験から、自分達の手で塩ビ管を直すことができると教師が判断したため、I児は教師に塩ビ管を元の場所に戻すよう声を掛けたが、教師は元に戻すようかかわることはしなかった。教師に頼ることのできない場であるからこそ、I児らは自分たちで直そうとかかわり、M児のように手を貸す場所を自分で判断してかかわっていく姿につながっていったと考える。

## 教師の援助

- ・同じ場で遊ぶ友達を巻き込む声掛け かかわりを促す 困っていることを広める

教師はI児の塩ビ管をもとの位置に戻してほしいという申し出に対し、教師には直すことが難しいことを伝え、友達と力を合わせれば直すことができるのではないかと同じ場で遊んでいる幼児に聞こえるように声を掛けた。このことで、周りで遊んでいる幼児が困っている友達の存在に気づき、かかわっていくことができたのではないかと考える。

(文責：林 博之)



6月7日（火） 「もーやめろー！」

| 幼児の姿   | 教師の思い・考え   |
|--|--|
| <p>K児は砂場でお気に入りの容器をもって、水道から引いた桶（桶は水道からホースを経由し、3つつなげられており、教師があらかじめ用意しておいた）から水を汲もうとしていた。しかし、D児、O児が水道と桶を繋ぐホースを引っ張り出し、水をまき始めてしまい、水を汲むことができなくなってしまった。</p> <p>K児 「おーい、先生、先生、これで今遊んでいるよ。」<br/>とK児は困った表情で、教師に声をかけた。さらにK児が教師に声をかけている最中に、K児にホースの水がかかりそうになる。</p> <p>K児 「ほーら、先生、先生、あの子、遊んでる！」<br/>教師 「誰が遊んでるの？」<br/>D児 「あっ」</p> <p>D児、O児は教師の声を聞いて、さっとその場を離れていた。</p> <p>O児 「この子だよ」<br/>とO児はD児がホースで遊んでいたことを教師に伝えようとした。</p> <p>H児 「O児君と、D児君だよ」<br/>近くで一部始終を見ていたH児が付け加えた。教師は、K児は桶が壊れてしまって、水を汲むことができないことに困っていると分かっていたため</p> <p>教師 「桶が壊れてる、大変」<br/>と声をかけた。</p> <p>O児 「D児君がこれを壊したんだ」<br/>教師 「直せるかなあ」<br/>D児 「直せるよ」<br/>と言い、D児はサッと桶を直してしまう。<br/>D児 「直ったよー」<br/>とH児と、D児は直ったことを教師に伝えた。その様子を見たK児はお気に入りの容器に、桶から流れ落ちる水を嬉しそうに汲んでいた。</p> <p>しばらくすると、D児が桶をひっくり返し、水が一気に流れ落ちる様子を楽しみだした。それと同時に、水道とつながった桶が壊れてしまった。桶から水がなくなり、水を汲むこ</p> | <p>・直接的にはかかわらないが、困っていることを受け止め、その場で教師の存在を感じて安心して遊べるようにした</p> <p>・誰が壊したのではなく、桶が壊れて遊べなくなって困っているという思いを受けとめようと声をかけた</p> |

とができなくなったK児は

K児 「もー、やめろー！」

と怒った表情で、D児に声をかけた。D児は桶から水が流れ落ちることが楽しい様子でK児の言葉には耳を傾けられなかった。

D児 「おもしろい！おもしろい！」

と遊び続けた。そして、水道側の桶が一つ落ちていて、水がもう流れてこないことに気づいたK児は

K児 「ほーら、壊れた！先生、ほら！先生、ほら！」

H児 「先生、壊れたよー」

K児、H児は教師に壊れたことを知らせようと声をかけた。しかし教師は別の幼児とかかわっておりすぐにはK児のもとに来ることができなかった。教師が他の幼児とかかわっており、すぐには行くことができないと感じたK児は、D児に向かって、

K児 「もう、やめろー！お水、もう出さないで（桶をひっくり返さないで）」

と言い、水道の方に近づき、自分で何とか水が流れるようにしようとした。それに気づいたD児が、K児の方に近づいてきた。

K児 「だからもー、直して！」

D児 「わかってるって」

といい、D児は再び桶をサッと直した。

D児 「直したよー」

直した様子を見て、水が流れていることを確認したK児は、落ち着いた表情になり

K児 「ありがとー」

と言い、再び容器に水を入れることを楽しみだした。

・自分で困っていることを伝えていくことができるだろうと思ひ、様子を見守ることにした

## 《 考察 》

### 課題

- ・ 桶から容器に水を入れたい

### 解決方法

- ・ 友達に思いを伝えて解決 思いを伝える

## 学んでいたと思われること

- ・困ったことを教師に伝えると、解決できること **教師(他者)の力を借りる**
- ・教師に頼らなくても、友達に思いを伝え、解決できること  
**思いを伝える** **友達(他者)の力を借りる**
- ・困ったことが解決できた満足感 **満足感**

## 環境の構成

- ・3つのつながった樋 **自分達で組んだり直したりできる遊具**  
水道からホースを経由して、樋を3つつながげている。幼児は水道から樋を流れていく水の様子を見たり、継ぎ目から漏れる水や、流れ落ちる水をバケツや容器に入れては流したりすることを楽しんでいる。樋を3つつながげていることで、樋が長くなり、樋にかかわることのできる幼児が増える。樋にかかわる人数が増え、一人一人が樋を流れる水とのかかわりを十分にとることができることで、樋が壊れてしまい水を汲めなかったり、水かうまく流れてこなかったりすることに繋がっていった。
- ・自由に水を使える環境 **自由に使える遊具**  
桶などにあらかじめ使える水を限定して用意しておくのではなく、水道から自由に水を使えるようにした。そのことで、水を流しながら樋の調整や水が流れてこない原因（樋が外れると流れない）ことに気づくことにつながった。
- ・自分の思いを受け止めてもらえる教師の存在 **教師に受け止めてもらえる**  
K児は、樋が壊れてしまい困っているという気持ちを何度も言葉で表した。教師は他の幼児とかかわっており、すぐに直接かかわることができなかったが、「樋が壊れてる。大変」や「直るかな」などとK児の思いを受け止めるかかわりをしていた。このK児は教師に自分の困っているという気持ちを受け止めてもらえる教師の存在があったため、安心して樋や友達とかかわることができたと考える。

## 教師の援助

- ・幼児の困っていることを代弁する。 **思いに気づき代弁する**  
K児は、ホースで遊んでいる友達がいることを教師に伝えたが、それは樋に水が流れてこなくて、水を汲むことができずに困っていることを伝えようとするのであった。そのことから、ホースで遊ぶことをD児やO児に話すのではなく、樋が壊れて困っていることを伝えた。
- ・解決する様子を見守る **見守る**  
教師はK児の困っているという声に直接的に援助をせずに、思いを受け止めること、代弁するところを行い、解決する様子は見守るようにした。教師が直接かかわり解決するのではなく、見守ることでK児とD児のかかわりが生まれ、思いを伝えることや自分達で課題を解決できたという思いをもつことにつながったと考える。

(文責：林 博之)

7月15日(木) 「貸して」

| 幼児の姿   | 教師の思い・考え   |
|--|--|
| <p>A児はお気に入りのフェルトの食べ物を持って、皿に盛りつけて遊ぼうとしていた。しかし、いつもはお家ごっこの場に皿があるのだが、見当たらないようであった。</p> <p>A児 「先生、お皿は？お皿は？A児のお皿は？」<br/>と教師の周りで、お皿はどこにあるのかと尋ねてきた。</p> <p>教師 「お皿？あそこ(キッチン指さす)にあったよ。見ておいで」</p> <p>A児は皿を探しに保育室内のキッチンの場所に探しに行った。</p> <p>D児はホットケーキパーティーをしようと、ジュニアブロックで家をつくり、ホットケーキを並べようとしているところであった。A児と教師の会話を聞き、D児も皿を使おうとA児の後にキッチンへ向かっていった。</p> <p>A児はキッチンで皿を見つけられずに困った表情でテラスへ戻り、D児は3枚の皿を見つけてお家ごっこの場に戻ってきた。</p> <p>D児 「先生、お皿3枚あった」</p> <p>教師 「お、いいね。A児君も使いたいって言ってたよ」</p> <p>それを聞いたD児は、</p> <p>D児 「A児君の場所、A児君の場所、ここ」<br/>と言い、椅子を用意してA児に座るように促し、一緒にホットケーキを盛り付けようとしていたが、A児は</p> <p>A児 「お皿」<br/>と、テーブルを3回たたき、手をD児の前に出し、お皿がほしいことをアピールした。しかし、D児にはそれが伝わらず、</p> <p>D児 「D児のやつで、パーティーするから、お皿並べるから」<br/>と準備を進めながらA児に伝えた。A児は引き続き皿がほしいことをD児に伝えようとするが伝わらず、貸してもらえなかった。貸してもらえないことが分かると教師に向かって</p> <p>A児 「ねえ、A児のは？A児のは？」<br/>と目に涙を浮かべながらかかわってきた。</p> <p>教師 「A児君、一枚貸してって聞いてごらん」</p> | <p>・自分でほしいものを探してほしいと願い声をかけた</p> <p>・皿を見つけられずに困っているA児の存在にも気づいてほしいと思いをかけた</p> <p>・教師とA児のやりとりからD児にA児がどうしたいのか気づいてほしいと願い大きめの声でかかわった</p> |

|   |  |
|---|--|
| <p>A児 「いや」<br/>         と言い、一人では言いづらそうであったが<br/>         教師 「D児ちゃん貸してって言ってごらん」<br/>         と教師がD児に伝えるべきことを再度教え促すと自分からD児のもとへ行き、<br/>         A児 「貸して」<br/>         と小さな声で伝えた。それを聞いたD児はお皿を一枚A児に手渡した。D児は皿が2枚になったが、かまわない様子でホットケーキを盛り付けていた。A児はお皿を受け取り、自分の持っていた食べ物を盛り付けると、ニコッと笑いD児の用意したテーブルにお皿を並べた。近くにいたC児が一部始終を見ており、A児がお皿を借りた後すぐに、<br/>         C児 「貸して」<br/>         と伝えたが、<br/>         D児 「(お皿が)一枚になったらご飯食べられない」<br/>         と言い、お皿を貸すことはなかった。C児は皿には思い入れはほとんどなかったため、貸してもらえないと分かったとその場を離れていった。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A児の「皿がほしい」という思いが伝わらなかったため、具体的にどのように伝えればよいか教え、自分から再度かわってほしいと思い、促した</li> <li>・ D児が自分の使いたい分まで貸してしまい、自分のしたいことができなくなってしまうか見守ることにした</li> <li>・ C児は皿を使う遊びをしておらず、皿に対して思い入れはほとんどないと見てとれたため、C児に直接はかかわらず様子を見守った</li> </ul> |
|---|--|

## 《 考察 》

### 課題

- ・ 自分が使う皿がほしい (A児)

### 解決方法

- ・ 教師から解決の方法を聞き、自分から友達にかかわり解決 教えてもらう 思いを伝える

### 学んでいたと思われること

- ・ 困っていることを表現すること(A児) 言葉で表す

A児は使いたい皿を見つけることができず、教師や友達に言葉で自分が使いたいということを伝えようとしていた場面

- ・ 教師に解決の方法を覚えてもらえること(A児) 解決の方法を覚えてもらう

A児は皿が見つからない時、皿を貸してもらおうとするときに教師に尋ね解決の方法を覚えてもらっている場面

- ・友達に自分でかかわって解決できること(A児) **思いを伝える** **教師にやって貰わずに解決**  
A児が教師に教えられた方法で自分から友達にかかわり、皿を貸してもらえた場面
- ・課題が解決した満足感 **満足感**  
A児が自分の言葉で「貸して」といい、友達から皿を貸してもらうことができた場面

### 環境の構成

- ・皿の枚数 **一人1つずつはない遊具**  
皿を使いたい幼児に十分なだけの皿を用意しないことで、使いたい幼児の数に対して皿が不足した。このことで幼児が困り感をもち、教師や友達にかかわって皿を貸してもらおうとする姿につながったと考える。
- ・教師にすぐにかかわれる場 **教師にかかわれる場**  
A児は皿がほしい時や皿を貸してもらえず困った時にすぐに教師にかかわることができた。教師は直接皿を探したり、友達に貸すように声をかけなかったが教師がすぐ近くにいることで、A児は解決の方法を尋ねたり、教えてもらったりして安心して自分から行動することができるきっかけになったと考える。

### 教師の援助

- ・安心して思いを話せるよう寄り添う **安心できるようにする**  
教師が近くにおり、安心してかかわり話しかけることができるよう寄り添うことで、A児が皿を探し見つからない場面や友達に貸してほしいと伝えようとするが伝わらない場面でも、あきらめずに皿がほしいという課題に向き合い、自分から友達にかかわっていきこうとする姿につながったと考える。
- ・解決の方法は教えるが、直接かかわり一緒に解決しない **方法を教える**  
A児は、皿が見つからなかったり、友達に貸してほしいということが伝わらなかったりするたびに教師にかかわってきた。日ごろの様子からA児は方法を教えれば自分で友達にかかわっていけると見とっていたため、教師は皿の場所や、友達にどう伝えたらよいかは教えたが、一緒に探したり、一緒に思いを伝えることや代弁したりするなど直接的なかかわりはしなかった。このことが、自分で友達にかかわり課題を解決しようとする姿につながっていったと考える。  
(文責：林 博之)

10月26日(水) 「わかった。じゃあ、かーしーてっていつてみたら？」

| 幼児の姿   | 教師の思い・考え  |
|--|---|
| <p>H児, E児ら何人かが集まり, 絵本を一緒に見て楽しんでいた。いろいろな絵本を見ているうちに, H児とE児が一冊の絵本を自分が見たいと言い, 取り合いを始めた。H児が絵本を取り, E児が泣きながら教師のところへやってきた。</p> <p>E児 「えおんおみあ・・・(泣いていて聞き取れず)」</p> <p>教師 「どうしたの。泣いていて分からないから, もう一度教えて」</p> <p>E児 「絵本読みたかった」</p> <p>教師 「どの本読みたかったの？」</p> <p>E児 「H児ちゃん持ってるやつ」</p> <p>教師 「あー, なるほどね。H児ちゃんに見せてって言うてみたら？」</p> <p>E児 「やーや」</p> <p>と言い, E児は泣き続けている。</p> <p>教師 「どうしようね」</p> <p>と一緒に困って声を掛けた。その声を聞いて, 泣いているE児を気にして近くで教師とのやり取りを見ていた, I児, N児, O児が近づき声をかけてきた。</p> <p>I児 「わかった。じゃあ, かーしーてっていつてみたら？」</p> <p>E児 「やーや」</p> <p>N児 「順番に読んだら？」</p> <p>E児 「いや」</p> <p>O児 「じゃんけんしたらいいよ」</p> <p>E児は首を横に振る。</p> <p>教師 「うーん, どうしようね」</p> <p>I児 「一緒に, 貸してっていつてこよう」</p> <p>教師 「ああ, それはいいね。一緒に聞いてあげるといいかもね。」</p> <p>教師の言葉を聞いたE児は少し気持ちを落ち着かせて, I児らの方を見た。E児の様子をみたI児, N児, O児は手を引き, H児のもとへ連れて行った。E児が泣いてしまったことを気にしてか, H児は絵本を取ったことに十分には満足はしておらず, 絵本を読まずにじっと座っていた。I児, N児はE児をH児の前まで連れていき, 一緒に</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で本を貸してほしいという思いを伝えてほしいと思いをかけた</li> <li>・近くにE児を気にして集まっていた幼児がいたため, E児が困っていることを広めようと周りの幼児に聞こえるように声をかけた</li> <li>・E児の気持ちが沈んでおり, 友達のどの案も肯定的に捉えられないと判断したため, 教師も幼児の案に共感することで, E児に安心して友達の案を受け入れられるようにした</li> </ul> |

|  |  |
|--|--|
| <p>I 児, N 児, O 児 「かーしーて」<br/>とH児に明るく声を掛けた。H児はきょとんとして, E 児の方を見ていたので</p> <p>教師 「その本を貸してほしいみたい」<br/>と付け加えた。するとH児は少し考えた後, 絵本をE児に差し出した。</p> <p>E 児 「ありがとう」<br/>と言い, 絵本を受け取ると涙を拭いて, 嬉しそうに自分の座席に戻っていった。その様子を見た, I 児, N 児, O 児は安心したような表情でそれぞれ自分の座席に戻っていった。</p> <p>教師 「H児ちゃん, 絵本渡してよかったの？」<br/>H 児 「うん！」<br/>と言うと, すっきりとした表情で新しい絵本を取りに行き, 笑顔で読み始めた。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H児はいざこざの後に気持ちがすっきりとせずじっと座っていたため, 突然 I 児, N 児に声をかけられた意味がよく伝わっていないと判断したため, 言葉を付け加えた</li> <li>・ H児が本を本当に貸してもよかったのかを判断するために声をかけた。その後の様子からも気持ちを切り替えられたと判断したため, 更なる援助は行わなかった</li> </ul> |
|--|--|

## 《 考察 》

### 課題

- ・ 泣いている友達を助きたい

### 解決方法

- ・ いろいろな解決方法を提案して一緒に解決 提案する 一緒に解決

### 学んでいたと思われること

- ・ 困っている友達に自らかかわり, 解決方法を提案すること 言葉で表す 解決方法の提案  
絵本が貸してもらえず泣いているE児に「貸してと聞く」「順番で読む」「じゃんけんで決める」という案を伝える場面
- ・ 自分たちの案で解決できるということ 教師にやって貰わずに解決  
「貸してと言う」案で, 本を貸してほしいという思いをかなえた場面
- ・ 課題が解決した安堵感 安堵感  
I 児, N 児, O 児が, 本を借り「ありがとう」とH児に伝え嬉しそうに座席へ戻っていくE児の様子を見た場面



## 環境の構成

- ・限られた数の絵本 一人1つずつはない遊具

クラスの本棚には時期や幼児の興味に合わせた絵本を置いているが、基本的に同じ本を2冊以上は置いていない。そのため、1冊の本を読みたい複数の幼児がいた場合に困り感が生じ、そこから幼児同士のかかわりが生まれていったと考える。

- ・困っている状況 困っている雰囲気

教師はE児に対して案を出すか、E児に案を拒否され新たな案が見つからなかった。そのためE児と教師は「どうしようね」と二人で悩んでいた。教師も悩み困っており、二人とも困っている雰囲気が、I児らの自分たちで友達を助けようという行動につながったと考える。

## 教師の援助

- ・困っている友達の存在を広める 困っていることを広める

E児が絵本を貸してもらえないことに困っていることや解決方法が見つからないことについて「どうしようね」と教師も一緒に困り、周りにいる幼児に聞こえるように伝えた。このことで、E児が具体的に何に困っているのかを知り、解決方法を提案する姿につながったと考える。

- ・幼児が伝えたいことが伝わるように補う 言葉を補う

I児らが「かーしーて」とH児に伝えた場面では、H児はI児らの言っていることを十分に理解することができず、きょとんとしていた。そこで、目の前にいるE児と手に持っている絵本を結び付けて考えられるように「その本を貸してほしいみたい」と言葉を補い、I児らの伝えたいことと、H児が絵本をどうするかを考えられるようにした。

(文責：林 博之)

2月17日（金） 「林先生、でっかいからから無理だよ」

| 幼児の姿   | 教師の思い・考え                               |
|--|--|
| <p>H児は製作コーナーで広告紙を細い筒状に丸め、スティックづくりをしていた。そこへ細いスティックをつくることができないG児が近づいてきた。</p> <p>H児 「つくれんの？（つくれないの？）」</p> <p>G児 「できないんだから。やって～」</p> <p>とG児はH児につくってほしいことを甘えた声で伝えた。</p> <p>H児 「ちょっとまって、えーと、じゃあこれくらい？」</p> <p>と言い、G児がつくってほしい太さを確認するように声を変えた。G児がそれを見て頷く様子を見ると、H児はスティックを半分ほど巻き上げた。その様子を見ていたL児がH児に近づき、「G児ちゃんの次（につくってほしい）」とH児につくってほしいことを伝えた。「G児ちゃんの次はL児ちゃん」と言い、L児に答えていた。G児はH児が半分ほど巻き上げた様子を見て、自分で残りができると判断し、H児からつくりかけのスティックを受け取った。G児は残りを自分でつくりあげようとしたが、うまく巻き上げることができず、失敗してしまった。G児は失敗してしまい困った表情でH児の方を見ていた。その時H児はL児の広告紙を受け取りスティックをつくり始めていた。つくっていく様子を見ながらL児は</p> <p>L児 「もっと小さく（細く）もっと小さく」</p> <p>と細いスティックになるようにH児に伝えていた。H児も</p> <p>H児 「これくらい？」</p> <p>と確認しながらスティックをつくりあげていった。H児がL児のスティックをつくりあげようとしている時、困っている表情のG児に気がついた。さらに近くで教師がP児と同じように広告紙を使ったスティックづくりをしている様子にも気づいた。近くに教師がいると分かったH児は</p> <p>H児 「林先生にやってもらったら？」</p> <p>とG児に尋ねた。しかしG児は教師の所へは行こうとしなかった。その様子を見ていたL児がすかさず</p> <p>L児 「林先生、でっかいから（太い剣しかつけれない）から無理だよ」</p> <p>とH児に伝えた。H児は言われた直後は、L児の言っていることが分からない様子であったが、ちょうどその時、教師がP児に向かって</p> | <p>・自分達でかかわり合いながら解決できると判断して様子を見守った</p> |

|  |  |
|--|--|
| <p>教師 「先生、太いのしかつくれん」</p> <p>と教師は太いスティックしかつくれないから、他の友達に聞いてみてはどうかと促した。その声を聞いたH児はハッとした様子で顔を上げ</p> <p>H児 「H児、細いのいっばいつくれる」</p> <p>とつぶやいた。その声を聞いた教師はP児に向かって</p> <p>教師 「ほう、H児ちゃんじょうずやって」</p> <p>と伝えた。それを聞いていたH児は一人で頷き自信をもった表情でG児の広告紙を受け取りスティックをつくり始めた。G児も今度は失敗しないようにH児のつくる様子を見ながら、テープを一緒に貼りスティックをつくりあげていった。</p> | <p>・H児を直接認めるのではなく、P児にH児の出来ることを言い、間接的にH児を認めるようにした</p> |
|--|--|

## 《 考察 》

### 課題

- ・細いスティックをつくりたい

### 解決方法

- ・困っている友達に力を貸してあげて解決 友達に力を貸して解決
- ・友達につくってもらって解決 友達の力を借りて解決

### 学んでいたと思われること

- ・教師では解決できないことでも自分は解決できること(H児) 自己有用感 教師に頼れない  
「先生でっかいから無理だよ」とL児に言われ、教師の「先生、太いのしかつくれん」という言葉を聞き、H児が「H児、細いのいっばいつくれる」とつぶやきG児のスティックをつくり始めた場面
- ・教師に頼れなくても、友達にかかわれば解決できること (G児, L児) 助けてくれる友達  
教師が細いスティックをつくれないと知っていたG児が近くに教師がいるにもかかわらず教師に助けを求めなかったり、L児が「先生でっかいから無理だよ」と言い教師に頼ることができないことを話し、H児にかかわり続けたりした場面

### 環境の構成

- ・すぐに頼ることのできない教師の存在 教師に頼ることができない場  
教師は製作コーナーでスティックづくりができるようになった幼児が増えてきたころから、幼児が求めるような細いスティックをつくることをやめ、太いスティックをつくらせて遊ぶようにした。太いスティックしかつくれず頼ることのできない教師の存在が、細いスティックをつくりたい幼児同士のかかわりにつながったと考える。

- ・周りの友達の様子を見やすい場 友達の様子が見やすい場

遊びの場を保育室とテラスに展開していた。製作コーナーはちょうどその中間に位置している。幼児は日々の遊びの中で、誰がスティックを細くつくれるのかや教師は太いスティックしかつけれないことを見ることができていた。そのことが、H児にスティックづくりをしてほしいとかかわる姿や、L児の「先生でっかいから無理だよ」という発言につながったと考える。

#### 教師の援助

- ・間接的にできることを認め、自己有用感を高める 認める 自己有用感

教師は、H児が「細いのいっぱいつくれる」とつぶやいた声を聞き、H児が細いスティックをつくれるということを、H児に聞こえるようにP児に伝えた。自分の出来ることを直接認められる以外に、別の幼児に教師が話していることを聞くことで、H児の自己有用感が高まり、自信をもってG児に再度かかわっていったのではないかと考える。

(文責：林 博之)